

市指定文化財<史跡>

むりょうざんさいふくじ
無量山西福寺

指定日 昭和41年4月15日

所在地 菊池市西寺 中西寺



当寺は和銅2年(709)の開基と伝えられるが、開山は不明である。無量山と号するが、もとは禅の古刹で、後に浄土宗に変わる。

15代菊池武光が菊池五山を定めたとき、その一寺となる。文明13年(1481)8月の「菊池万句」に「月ならて 苔地に秋の 色もなし 西福寺 廣誉」の句があり、廣誉開山説もあるが年代が異なる。

『国郡一統誌』には「無量山西福禅寺ハ阿弥陀仏像ヲ安ジ、鎮守八幡・祇園・阿蘇三社ナリ」とある。本尊は木彫りの阿弥陀仏で蓮台の上に立ち、台高19cm、身丈91cm、肩幅25cmで、孔雀の彫りがある。光背は高さ118cm、均整のとれた仏像は室町末期の作と推定される。

本堂裏手の墓所には20～30基の五輪塔・宝篋印塔ほうきょういんとうが散在するが、その一郭には菊池氏の武将、赤星有隆や城武岑のものと伝えられる墓石がある。また享保13年(1728)制作の釈迦涅槃像ねはんの掛け軸が保存されている。